



第 32 号

2023年(令和5年)7月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

時と共に

社会福祉法人 聖家族会 理事長 **西村 和子**

新型コロナウイルス蔓延のために、その前まで盛んでなかったZOOM会議・講話視聴など、新しい分野が開けて来たことを感じます。いろいろな事の簡素化や清潔面の意識の向上など、よい方に考えれば新しい世界が広がってきています。しかしコロナが蔓延した時に親族や友人との永遠の別離をした方たちには、最後の面会も許されなかったこともあり、消すことのできないつらい思い出になったことと思います。

施設は職員不足

どこの施設でもそうでしょうが、現在施設ではみさかえの園の職員不足の問題が深刻化してきています。60年前は、新しい施設で入所者も児童が多く、未来がありました。職員

も何とか充足され、訪問客(見学者)も多く、人々の関心を呼びました。現在高齢化し、障がい具合いも大きくなり、現代人には魅力がなくなつたと考えられています。けれども人と人との触れ合いの原点があるところと思います。

日本全体の人口減少、特に労働人口の減少があります。福祉施設と言うのは仕事がつく、給料が安いというイメージがあります。奉仕の心と言うのを昔から打ち出しているせいもあるでしょう。しかし実際に他の民間企業と比較して給料が低いのでしょうか？

「みさかえの園だより」を手にとつて読まれた方の中にも福祉施設での職業選択のあることを考えるきっかけになればと思います。

2025年問題

福祉新聞ではよく取り上げられていました。団塊世代が75歳になる。国民の4人に1人が高齢者となり、労働者の減少。高齢者の病院通いが増える、介護を必要とする人の増加となっていく。このようになれば外国の働き手の多いところに頼らなければならぬのではないかと思えます。日本全体に危機が来るときのかのように報じられていたことを思い出します。

現実には日本国内にいて大きな危機感を感じていないのが現実で、現実感を身にしてみている時には、手遅れとなっているのでしょうか。

外国人を受け入れるとしたら課題

技能実習生の問題が多く取り上げられている昨今です。日本語が十分対応できる状態で来日する方は、ほばいないでしょう。語学研修、そして仕事面においての考えや受け取り方の違いからスムーズにいかず、お互いの精神的ストレスが増すでしょう。忍耐の心をもって文化の違い、思考の違いなどを受け入れていかなければならないと思います。日本の文化や思考を一方的に押し付けることなく相手を尊重しながら。お互いを受け入れていく事がこれからの福祉施設であると思っています。

「いどもまんなか」が叫ばれている

「こども家庭庁」が、今年の4月から日本の行政機関の一つとして歩みだしています。大人中心の世界から「こども中心、こどもまんなか主義」を強く推進し、子どもを大切に日本の将来の担い手として、日本国全体で育てて行こうという、新たな目標に向かっていくようにも感じます。「子どもをまんなかにして、お年寄り、障がいを持った方たちが共に安心して支え合って生きていく社会になっていく事ができますように」と願っています。

誰も忘れられない世界を

命をいただいたすべての人、一人ひとりの命を大切に、すべての人の幸福を願う心が多くの人の中にありますように。一人でも多くの人に福祉施設への関心を持っていただきたく願っています。

「はつきり言っておく。私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

(マタイによる福音書25章40節)

イエス様はもっとも弱い人々に寄り添い行動する時に、人との温かいつながり、心の交流、そして平和があることを語っています。

ワークスペースあん

3年以上にわたるコロナ禍も感染症法に基づく分類が2類相当から5類へ移行しましたが、マスク着用・検温・手指消毒等は継続中です。授産科目（特に育苗）においてコロナの影響は有難いことに殆ど受けていませんが、バザー出店及び年間行事（特に事業所外）においてはセーブしながら実施しています。年2回の日帰り旅行は一大イベントにあたり利用者さんの期待も大きく膨らみます。コロナ禍では、事業所を起点としたバスドライブに変更しましたが「もう飽きた、どこか行きたい」と声が聞かれ始めています。令和4年12月クリスマス会（ボーリング含む）は、2年振りにボーリングを楽しみましたが食事はテイクアウト対応しています。

令和5年5月24日日帰り旅行「吉野ヶ里歴史公園」へ足を運び、見学・食事・買い物を楽しみ今後の就労意欲の向上やモチベーション維持に反映されると思います。又、遺跡発掘（石棺墓）現場を偶然にも見学することが出来、マスコミにも取り上げられるなど古代ロマンに夢を抱きましたが人骨や副葬品は出土しなかったと聞いて少々、残念な思いに浸っています。

育苗（野菜苗・花苗・玉ねぎ苗） 土作り



・落ち葉を集め堆肥と混ぜて土作りを行います。



混ぜ込みの踏み固めも大切な作業です。1足ずつ丁寧に万遍なく技術が必要でこの作業を3回繰り返します。

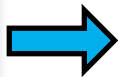


土振るいをして完成。メンバーの阿吽の呼吸が素晴らしく自分達だけで担当出来ます。

育苗（野菜苗） 接ぎ木苗

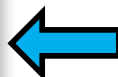


①台木（土台になる）



②長茄子の苗

・①の苗に②の苗を接ぎます。



①に③を挿す



③接ぎ木ピン

④赤○が②の苗を接いだ部分で左側の写真で完成です。

茎の真ん中に接ぎ木ピンを挿す技術（手先の器用さ、力加減）が必要とされ利用者さんは、現在1名の方のみです。

接ぎ木苗は、普通の苗と比べ出荷単価が倍になりますが管理の面でリスクも大きいです。今年度の接ぎ木苗本数は、全体約26%の3,556本です。

・「農福連携」は、農業分野において障害者の受け入れは働き手の確保につながり、福祉分野においては就労先の確保や工賃向上につながると期待されていますが天候に左右されやすく作業期間が不安定など課題もあります。自分たちの軸足（授産科目）をキチンと守りながら地域の農家さんとの連携も積極的に進めて行きたいと思っています。（サービス管理責任者 門脇直子）

新型コロナウイルス感染症 拡大前と後の支援について

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 森 明日香

約3年間、猛威を振るった新型コロナウイルスはⅡ類からⅤ類に移行され、マスク着用や三密等の新しい生活様式も緩和の流れへと向かっています。「めぐみの家」でも今年の1月にご利用者様や職員が次々と感染し、収束まで約1か月の時間を要しました。コロナ流行前もインフルエンザやノロウイルスなどの感染症を施設で暮らすご利用者様に感染させないため「持ち込まない、持ち出さない、拡げない」を念頭に、日々の検温や健康状態の観察、施設内の清掃、換気、手洗い、消毒、流行時には面会や外出などの制限を行ってききました。しかし、一人が発症したとたん瞬く間に感染者が増え続け、新型コロナウイルスの感染力の高さにこれまでの感染対策は不十分であったのかと感じました。

毎日数人、時には十数人発症しても、ご利用者様の生活を守るため支援をやめるわけにはいきません。そのため法人内の他の事業所より職員が応援に駆けつけてくださり、感染区域・清潔区域を分けるゾーニング、PPEの着脱方法、飛沫を最小限に止める口腔ケア、使い捨てタオルを使用した清拭介助、そして何よりもケアごとに行う消毒の大切さなど、様々な支援方法のアドバイスをいただきました。

新型コロナウイルスもⅤ類に移行したとはいえ、ウイルスは無くなったわけでも危険性が低くなったわけでもありません。ご利用者様が健康に過ごしていけますよう、今回学んだ経験を活かしながら支援をしていきたいと思います。



新型コロナウイルスⅤ類への移行に伴い、今後の行事の取り組みについて

みさかえの園めぐみの家

生活支援員 中村 綾美

令和5年5月6日より新型コロナウイルスはⅡ類からⅤ類に移行したため、コロナ禍以前の生活に少しずつ戻ってきています。この状況を考えると、ご利用者様に楽しんでいただけるような施設外での行事も増えていくのではないかと思います。この感染症が猛威を振るっている時は、施設内で感染対策をとりながら行事を開催してきました。しかし、地域との交流やご家族様と一緒に過ごす行事は制限されてしまい、ご利用者様には物足りない内容だったのではないかと思います。そのような中、季節の行事をご利用者様に楽しんでいただけるよう、職員が知恵を出し合いながら取り組んできました。たとえば、地域の保育園で園児が七夕飾りを作成している様子や遊戯を職員が撮影し、それをご利用者様に観ていただき、実際に園児の作品を笹に飾るなど、お互いが直接会うことは

できなくてもひと工夫すれば、立派な地域交流ができると実感したものでした。

でもやはり一番つらかったのは、ご家族様と思うようにお会いすることができなかったことでしょう。わたしも担当のご利用者様より「今度、家に帰ったら…」という言葉を何度も聞きました。その度に「いつになったら」と思う毎日でした。しかし、対策緩和に伴い気を緩めてしまえば、再び集団感染を引き起こす可能性もあるいうことを忘れてはなりません。今後の行事の取り組みは、コロナ前のものをそのまま行うのではなく、ご利用者様の健康を第一に考え、感染対策をふまえた上で楽しく満足していただけるような形で実施していけるようにしたいと考えています。施設外の行事も少しずつ、少しずつ…。



近況報告「コロナ5類移行」に伴い



聖母月

みさかえの園のぞみの家

施設長 田中 伸一

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移行し、法律に基づいた外出自粛の要請等はなくなり、感染対策は個人の判断に委ねられることとなりました。

「5類」に移行したことに伴い、施設として、利用者が少しずつコロナ禍以前の生活に戻るよう対応していければと考えていますが、マスクの着用や手指消毒、施設内の換気といった基本的な感染対策は引き続き行っていく予定です。

面会については、昨年度末より感染対策を講じた上で、面会者数や面会時間を制限した予約制にて再開しています。利用者様、御家族の皆様には長い間ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。今後、段階的

に規制が緩和され、以前のように利用者様が外出や外泊できるようになることを願っています。

催事については、6月の「お楽しみショッピング」の一部を業者の出張販売から、近隣の店舗でのショッピングへと変更し実施しました。利用者様は、自分の好きな商品を選び購入することができたようで、久しぶりの外での買い物に喜び、「これを買ってきたよ。」とさっそく購入したものをを見せて下さいました。

高齢化・障がいの重度化も進んでおり、利用者全員での外出は難しくなっていますが、それぞれの障

害特性に合わせた企画を立て、皆様が楽しむことのできる催事を今後も検討していきたいと思っています。

令和5年度春開始のコロナワクチン接種については、のぞみの家も接種対象となっていますので、利用者様の重症化を防ぐためにも、準備が整い次第、ワクチン接種を行いたいと考えています。

現在も全国的にコロナウイルス感染者数が増加しており終息とはなっていないませんが、これからも利用者様が安心して施設での生活を送ることができるよう職員一丸となり対応していく所存です。



お楽しみショッピング



ニコニコDAY



5/1のぞみの家ではニコニコ DAY
を開催しました！

美味しいケーキに和菓子、ジュースや
珈琲を堪能し、午後からはゲームを楽し
み賑やかな一日となりました😊



「親子交流会と懇談会」

みさかえの園児童発達支援センター

介護福祉士 松永 貴行

新年度になり、数か月が経ちました。コロナが少しずつ落ち着いてきた事もあり、センターでは、5月に約4年ぶりとなる交流会と懇談会を開催しました。

親子交流会では、普段から行っている活動を通じて、親子で楽しい時間を共有してもらおうと思い、「わらべうた」を行いました。「ここはとうちゃんにんどこ」の歌をみんなで唄いながら、お子さんの顔に触れて、スキンシップを楽しんでもらい、「ほたるこい」と「ほほほたるこい」の歌では、職員が分かれて同時に唄い、異なる2つの歌(パートナソング)の響きを親子で聴いてもらいました。「きれいな響き」と称賛の声をいただき、最後はみんな楽しく唄いました。続いて、後半は「フォークダンス」を行い、車イスの方や歩ける方に合わせて、センター職員で考えた振付を踊りました。「マイムマイム」の曲が流れると、聞き覚えのある曲に、保護者の方々も自然と体が動いていた様子で、みんな笑顔で楽しめていました。

懇談会では、入所に向けての相談であったり、かかりつけ医に関する事など、在宅で過ごされている方々の悩みや思い、これから先の事についての考えなど、様々な意見が交わ

されました。職員と保護者同士の情報交換の機会にもなり、有意義な時間となりました。

終わってから、「久しぶりの交流会で楽しかったです。」「他のお母さんとの話ができてよかったです。」「などと、話をされていました。

また、休憩時間を使って、写真の販売も行いました。写真を見ながら、保護者同士の会話も聞かれ、楽しそうに写真を選ばれていました。

今回の企画は、急な呼びかけであつたり、家庭の事情などもあり、たくさんの方の参加とは言えませんでした。が、親子同士や、職員と保護者、また保護者同士、交流を行う事ができて良かったと思いました。コロナやインフルエンザの影響でまだまだ安心できるわけではありませんが、状況を見ながら、これからも懇談会や交流会、外出企画などを行っています。



「わくわく広場に勤務して」

諫早こどもデイサービスわくわく広場

保育士 原口 砂織

今年度の4月からわくわく広場での勤務になりました。それまでは児童発達支援センターと病棟での勤務でしたので利用者の介護が主で、発達が気になる子どもの支援とは仕事が大きく違います。また保育園で働いていた経験が10年も前ということもあり、子ども達と接する仕事に嬉しさの反面、不安もたくさんありました。そういった思いでスタートした4月でした。

今まで私が思っていた「保育」とは違い、わくわく広場は「療育」なので、療育の大切さ難しさを改めて感じました。一人ひとりに沿った療育目標をもとに、いかにその子に必要な支援ができるのか?が大切であり、親子通園でもあることで、ご家族の思いに寄り添い、お子様の成長と一緒に感じて語り合うことの大切さを感じました。先日、茶話会が開かれ保護者間の話し合いの場に参加させていただきました。家庭での様子や困りごとなどをお話ししていただく中で、ご家族の方の一生懸命さを感じました。その大切なお子様と、まずどうやって信頼関係を作ろうかと考えた時に、その子が発していることをよく聴こうと思いました。こ

れは病棟勤務でも同じで大切なことなのですが、また初心に戻りやっていこうと思いました。「聴くは十四の心を聞くこと。」と言いますがその子が何を言っているのか。一つ一つの動作や声、表情を丁寧に読み取る。難しいけれど、十四の心は一瞬一瞬を見逃さずによく観察しないと聴けないなと日々思います。よく聴いて受け入れて安心感に繋がったときに信頼関係ができるのかなと感じます。そして療育については知識不足でもあるため、諸先輩方や専門の方の教えを頂きながら、その子にとって必要な支援を行い自分自身も成長していきたいです。

親子で過ごす貴重な時間を通して、成長が見られた時、一緒に喜びを共感できるこの仕事に感謝の気持ちを持ってがんばっていききたいと思っています。



笑顔がいっぱい！

グループホームりん

八戸かおり

新型コロナウイルスの影響で外出や外食の行事等の取り止めや企画変更、帰省や面会なども中止になる中、自由食やテイクアウトを楽しみ、オンライン面会などでここ数年なんとか乗り越えてきました。やっと新型コロナウイルスが落ち着きつつある中で感染対策を行いながら帰省や外出を少しずつ楽しめるようになったので、利用者の方の久しぶりの笑顔と歓声の様子をお伝えします。



国見の神代へ行ってみたよ！

小路のまちなみ散策…雨天ではありませんでしたが、旧今村邸でコーヒー・紅茶をいただき、元職員にも会う事ができ会話を楽しめました。雑貨屋さんでは、家族にお土産も購入され、帰ってから感想を聞くと「楽しかった。また行きたい」と皆さん笑顔で話され、久しぶりの外出を満喫されました。



うれしい帰省

タクシーや家族の迎えがあると「やったあ」「行ってきますバイバイ」と喜びいっぱいの笑顔。戻られてから、「久しぶりの家はどうでしたか」と尋ねると「久しぶりに家族と会えて嬉しかった」「母の買いたての手伝いしたよ」などと話され帰省できた事とても喜ばれていました。

久しぶりの外食！

マスクを付け店内に入る時は消毒し、まだまだ感染に注意しながらの久々の外食。食事が届くと思わず「うわあ！」と歓声が響いた「キッチンさくら」。ゆめハウスから歩いて数分の元セブンイレブンの所のできた、ずっと気になっていた場所。店内は窓から海が見え、いろんな飾り物があるのでそちらにも興味津々。料理が届くと一変して静かに黙々とあつという間に食されました。帰り道で「今度はあそこに行きたいね」「バスに乗っていろんなところに行きたいね」と早くも次の予定を考えられていました。



盛り上がる試合観戦

V・ファールレン長崎を応援されている方数名は、試合観戦に行くことが出来ました。「試合どうでしたか」に「4-0でV・ファールレンが勝ったよ」「楽しかった」と話され、心待ちにしていた久しぶりの応援を喜ばれていました。



新型コロナウイルスが落ち着いたらどこに行きたいですか？と質問すると「近場でもいいから洋服買いに行きたい」「アーケードに行きたい」など外出を楽しみにされている様子。今後の予定でハウスステンボス旅行を計画されている方もいます。

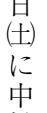
これからもっといろいろなところへ外出が出来るようになったらいいなと思っています。もちろん感染対策しながらですが…。

あゆみの家
開設50周年記念祝福ミサを終えて

施設長 平松 公三郎

1973（昭和48）年5月23日に5名の入所者を初めて受け入れて以来、半世紀を、あゆみの家は歩んできました。

13
日(土)に中村大司教さまの司式に
よる祝福ミサが
あゆみの家の多
目的ホールにて
行われました。



利用者、職員に加え保護者代表、法人から西村理事長、森事務局長はじめシスターが参列され、心温まるミサとなりました。とりわけ、中村大司教さまの50周年を祝うお話と、聖歌隊として参加していただいた南山小学校の生徒の皆さんの可愛く澄んだハーモニーは心に深く響くものでした。




重度の障害をお持ちの方を支える
あゆみの家にとって、これまでをふ
りかえり、新たな一歩を踏み出すの
にふさわしい一日となりました。

「愛の家」62年前のポスター発見

事務長 雄山 元司

[illegible]

記念誌に前理事長の故シスターランシスカ中山和子による「25年の回顧」の記事があり、その中に最初の建物の資金調達に大変苦労されたことが詳しく記されていました。

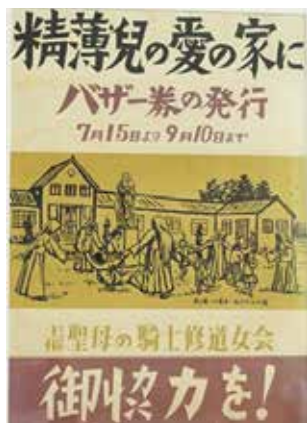
「資金調達の
ためにチャリ
ティーバザーを
行うためバザー
券を県内はもち
ろん東京大阪方
面まで出かけて
売り歩いた。長
崎市在住の有名
な版画家の故田
川憲先生は資金
集めのためみさかえの園のポスター
の作成を奉仕してくださった」との
一節がありました。



以前より田川憲先生の版画作品に大変興味があつた私にとつては、62年前のポスターがどのようなものであつたか見てみたいという衝動にか

られ、早速、理事長シスター西村和子と、長崎市出島町のギャラリーで田川憲の作品を紹介されているお孫さんの田川俊（たかし）様にポスター所有の確認をお願いしました。

数か月後、理事長からは「修道女会にも確認したが残っていない」との返事があり、半ばポスターの存在は諦めかけていたころ、田川俊様より「所蔵する田川憲の作品の中にポスターが2枚あった。1枚を聖家族会に寄贈したい」とのご連絡をいただきました。



田川俊様からは、「ポスターの発見は私の知らない『田川憲の仕事』でしたので作品を知るきっかけを頂いて私共も大変感謝しております」とのお言葉をいただきました。

また、「修道女会のシスターも皆喜んでいます」との話を理事長よりいただき、私の小さな発見が日頃接することの少ない修道女会のお役に立てたかと思いい大変嬉しく感じています。

寄贈いただいたポスターは額装し
修道女会に返り、修道院にある記念
館の中に収めて
いただくことにな
っています。



版画家田川憲
とみさかえの園
とのつながりが
どのようなもの
であったか等ま
だまだ興味は尽

きません、田川憲先生が彫られた「愛の家」に關わる者のひとりとして、これまでみさかえの園の發展にご尽力いただいた方々への感謝を忘れず、みさかえの園の各施設が利用される皆様の「愛の家」となることを心に誓い、これからの施設運営に努めていきたいと思ひます。

最後になりましたが、お忙しい中ポスターの確認を快く引き受けていただき、さらには貴重な一枚をご寄贈いただいた田川俊様に深く感謝申し上げます。



令和 4 年度 決算報告

貸借対照表

令和 5 年 3 月31日現在

科 目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	2,441,153
固定資産	8,993,052
(基本財産)	4,313,612
(その他の固定資産)	4,679,440
資産の部合計	11,434,205
負債の部	
流動負債	346,332
固定負債	7,644
負債の部合計	353,976
純資産の部	
基本金	690,604
国庫補助金等特別積立金	121,894
その他の積立金	2,897,545
次期繰越活動増減差額	7,370,186
(うち当期活動増減差額)	△ 66,028
純資産の部合計	11,080,229
負債及び純資産の部合計	11,434,205

事業活動計算書

自 令和 4 年 4 月 1 日 至 令和 5 年 3 月31日

科 目	金額(千円)
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	4,260,408
サービス活動費用計	4,321,971
サービス活動増減差額	△ 61,563
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	27,125
サービス活動外費用計	224
サービス活動外増減差額	26,901
経常増減差額	△ 34,662
特別増減の部	
特別収益計	1,410
特別費用計	32,776
特別増減差額	△ 31,366
当期活動増減差額	△ 66,028
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	7,150,214
当期末繰越活動増減差額	7,084,186
積立金取崩額	571,000
積立金積立額	285,000
次期繰越活動増減差額	7,370,186

資金収支計算書

自 令和 4 年 4 月 1 日 至 令和 5 年 3 月31日

科 目	金額(千円)
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,286,533
事業活動支出計	3,978,939
事業活動資金収支差額	307,594
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	190
施設整備等支出計	574,642
施設整備等資金収支差額	△ 574,452
その他の活動による収支	
その他の活動による収入計	571,000
その他の活動支出計	306,822
その他の活動資金収支差額	264,178
当期資金収支差額合計	△ 2,679
前期末支払資金残高	2,298,034
当期末支払資金残高	2,295,355

・ 端数処理の関係上、合計額と一致しない場合があります。

令和 4 年度 苦情解決委員会報告

- 苦情解決委員会・第三者委員に報告すべき苦情はありませんでした。
- 意見・要望について以下のようなものが寄せられ、各施設・事業所にて対応しました。

分類	件数
① ケアの内容に関わる事項	2
② 個人のニーズ（嗜好・選択）に関わる事項	0
③ 環境・設備に関わる事項	0
④ 事務に関わる事項	0
⑤ スタッフの接遇に関わる事項	2
⑥ その他	3
合計	7



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらの QR コードからご覧いただけます。
<https://misakae.or.jp/>